



## 診察室

## ざくばらん

## 急な首の負荷

## 内壁に裂け目

## 解離性脳動脈瘤

誰だって、何かをする時には、より良いと思う方法を選んでいるはずだ。が、その根拠が意外にあやふやだったりする。

48歳のTさん。一緒にゴルフをした時のことだ。失敗して、しこたま地球を叩いた。直後から、後ろ頭と首がズキンズキンと痛みだした。痛いなら、じっとしていればよいものを。しきりに、首を動かす。もしも「解離性脳動脈瘤」でもできていたら、どうするのだ。

解離性脳動脈瘤といえば、思い出すひともいるだろう。そうだ。あのジャーニー喜多川社長の病名だ。その動脈瘤が破れてくも膜下出血を起こした。解離性脳動脈瘤は、中年の男

性に多い。女性に多い普通の脳動脈瘤とは成因が違う。首に、いきなり過度な外力がかかった。急に振り向いた。極端に首を伸ばしたなどで、脳動脈の内壁に裂け目ができたりする。それが元で、コブができていくのだ。

クラブで地面を強く打ち付けられ、首に相当な外力が加わる。後ろ頭を走る椎骨動脈が傷つきやすい。それだけでも、解離性脳動脈瘤ができ、危険性がある。さらに首を激しく動かせば、動脈瘤がさらに大きくなるかもしれない。症状も、頭痛だけで治まってくれればよい。動脈瘤のできた部位によっては、脳梗塞が起きたりする。いや、くも膜下出血を起こすこともある。致命的だ。

もちろん、Tさんの頭痛は、ただの「変形性頸椎症」が原因かもしれない。40歳を過ぎたら首の椎間板が傷んでいるひとが多くなる。だが、頭痛の原因がはつきりするまでは、安静が原則ではないか。このころ、「首コリ、肩凝りは持病だ。首が硬くて痛いなら動かせばよいはず」と珍説を変えない。で、さらに首をガクンガクンと動かすではないか。癖みたいだ。が、もう止めてくれ。ワッシーの寿命が縮まる。

(石黒修三 しいしぐろクリニック  
脳神経外科専門医、金沢市在住、  
射水市出身)



イラスト・野畑桃花